

授業改善プラン

地域名	北総教育事務所	学校名	八街市立八街中央中学校
-----	---------	-----	-------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 令和3年度の調査では、全体の平均正答率は令和2年度より上昇しているが、依然として全国・千葉県の平均を下回っている。
- 「関数」では改善が見られ、千葉県平均を上回っている。
- 「記述式の問題」の正答率は平均を下回っていて、また無解答率も高い傾向にある。
- 無解答率と同様にその他の解答率も低いため、「問題文の理解力不足」が改善されていない。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 授業実践の中で記述式問題を取り扱い、定期テストや単元テストに積極的に出題をする。
- 少人数コースを実施し、個別の対応を図る。
- ICTを利用し、効果的な指導を行う。

3. 具体的な実践

- ①記述問題の出題
 - ・授業や定期テストで、文章で答えるような問題だけでなく、図の中に直接書き込むような問題も出題し、数学に苦手意識をもつ生徒でも取り組めるようにした。
- ②授業改善
 - 【第1学年】 「文字と式」
 - ・立方体をつなげた棒の本数を文字式で表す。また、その文字式を利用して問題を解く。
 - 【第2学年】 「式と計算」
 - ・文字式の利用で、カレンダーの数の性質について説明する。
 - 【第3学年】 「関数 $y=ax^2$ 」
 - ・三角形の形の変化、面積の変化を調べ、表、式、グラフに表す。
- ③少人数コース別授業の展開
 - ・第2学年、第3学年ではICTの少人数コース別授業を行い、「学び合いコース」と「じっくりコース」の2コースを設置した。また、単元ごとにメンバーを入れ替え、より効果的な指導を図った。
- ④ICTの活用
 - ・わかりやすい問題提示や生徒の考えを共有する等において、効果的にICT（電子黒板、Chromebook、ロイロノート、EduMail、ジャムボード等）を活用した。

4. 成果

- 記述式問題に解答する生徒が増加した。また、部分点を取れる生徒も増え、解答の内容も改善されてきた。
- 「じっくりコース」で学習をしている生徒の解答状況に改善が見られるようになってきた。また、無解答の割合が減ってきた。
- ICTの利用に慣れ、スムーズに使えるようになった。

◆担当指導主事から（北総教育事務所 指導主事 田口 亜紀子）

- 八街市立八街中央中学校は、平成31年度から継続して検証協力校として授業改善に取り組んでいる。本年度も全国学力・学習状況調査の分析結果から課題を重点化し、授業改善に取り組んだ。ICT機器を活用した授業や授業及びテスト問題への記述式問題の導入、コース編成の工夫といった継続的な取組が、徐々に成果として現れている。